

No.108 レベッカ・ベルモア —無題—

Rebecca Belmore

北川フラムさんのコラム / 1996 (平成8) 年7月1日付 立川市市報記事より

レベッカ・ベルモアはカナダの先住インディアン、アニシュナベ族のアーティストだ。彼女がファーレ立川に参加するにあたっては面白いエピソードがあって、これこそ現代の世界を映すというファーレ立川のドラマそのものだと言えるほどだ。カナダの優れたアーティストを探していた私は、それこそ写真1枚で彼女を知った。遠い日本のまったく知らない場からの招待に彼女は驚き、困惑し、一年間考え迷ったそうだ。まさに文明と生活の違いがそこにはあった。彼女の作品は車止めに書かれた「私は昼の光の太陽を待つ。」というアニシュナベ語が、夏至の日だけ壁に掛けられる日本文字に反射するというものだ。異なった地域が感応しあうという精神を彼女は作品にしたのである。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現: UR 都市機構) 「ミニ通信」より

“100人のアーティストによる表現は、新しい街に宿る100の人間存在の変化した姿と考えられる”

プロジェクト概要のこの部分は、私に強い印象を残しました。

私は、地球的規模で考えることを促され、ここから私の考えが出発しました。

地球は無限のリズムと周期をもっている。すべての人は、どんな時にも、ある特定の物理的な場をもっている。私はいつも、はかなく終わるアートに大変興味をもってきましたが、このプロジェクトでは、自らの持続性に挑戦する作品に取り組みたいと思います。

この作品では、自然が主役を演じることになります。果して、日本の東京のある場所に持続的に設置される美術作品が、“新しい街”に“住む”一個の人間として私の参加を生き生きと表現し、かつ地球上の別の場所の文化に生きる私の存在とつながっているようにするには、どうしたらよいのでしょうか。

一個の人間として、私達はたえず他者を理解する努力に携わっています。ある考えについて、個々人の間にはっきりした相互理解がなされるとき、その時こそが輝ける瞬間です。

これが作品のコンセプトです。

私は、テキストをベースにした作品を提案します。

これは、アニシナベ語 (アメリカ・インディアンのオジブワの言葉) と日本語と太陽による作品です。

テキストの内容は太陽についてです。この作品で、“個人”はアニシナベ語と日本語によって表現されます。日本語のテキストは、アニシナベ語の翻訳となります。翻訳にあたっての困難なプロセスを考えると、興味深いものがあります。

これら個々のテキストは、2枚の鉄のプレートの形をとります。一つは表面が非常によく反射するもの、もう一つは、表面が反射しないものです。

それらを“アニシナベ語テキスト・プレート”“日本語テキスト・プレート”と呼び、アニシナベ語テキスト・プレートは、車止めにさりげなく立て掛け（固定）、日本語テキスト・プレートは、車止めの向かいの壁に取り付けます。

ここで2枚のプレートは、それぞれそのままの状態にありますが、夏至の日、太陽の光がアニシナベ語テキスト・プレートを照らし出し、そこに描かれている像を日本語テキスト・プレートがかかっている壁に投射します。

こうして、物／個人間の“理解の瞬間”の可能性が励起されることとなります。